



玉川通信

～ かけはし ～

学校だより NO. 7
令和6年 10月31日
昭島市立玉川小学校
校長 小瀬 和彦

落ち葉に秋の深まりを感じる候となつてまいりましたが、保護者・地域の皆様には、御健勝のことと存じます。日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただきありがとうございます。また、10月19日（土）の運動会では、心のこもった御声援をいただきました。心よりお礼申し上げます。

読書離れをくい止めよう！読書の秋文化庁が実施した国語世論調査の結果、「6割の人が1カ月に1冊も本を読まない。」そんなデータが明らかになりました。「読書量が以前と比べて減っている。」と回答した人は69.1%に上り、前回（18年度）の調査から1.8ポイント増えました。また、読書量が増えた人は5.5%にとどまりました。

読書量が減った理由を複数回答で尋ねると、「スマートフォンやタブレットなどに時間が取られる。」との回答が43.6%で最も多く、「仕事・勉強で多忙」38.9%と続きます。読書離れをくい止めるため、みなさんなら、どのような知恵をしますか。

10月27日から11月23日まで「秋の読書推進月間」です。ぜひ、それぞれのご家族で「読書の秋」を充実させてほしい、と願っています。

読書のすすめ！

第1点は、読書をとおして疑似体験ができることです。読書をすることで、あなたが普段の生活では体験できないことを、容易に疑似体験させてくれます。例

えば、読書をとおして、あなたが行ったことのない国や地域を旅することができます。そして、多様な国の文化や自然などを知ることができます。また、冒険に出かけて、ワクワク・ハラハラする体験も味わうことができます。このような体験を積み重ねることで自らの人生を豊かなものにすることができます。

第2点は、読書をすることで「想像力」が身に付くことです。活字を読み進めて（物語の世界のなかに入って）いくうちに、自分で想像して、頭の中で映像化して、世界を描いていく作業が、これこそが、「読書をする」ということなのです。ですから「読書をすればするほど、「想像力」が身に付いてきます。他の国でたくさんの方が飢えで苦しんでいるニュースを聞いて、その国の人に思いを馳せたり、自分の身に置き換えたりすることができるようになります。

第3点は、読書後の交流で、「他者理解」がすすむことです。「他者理解」とは、「同じ本を読んでも『感じ方や考え方』『捉え方』が人によって違う」ことを理解する、ということです。読書によっていろいろな想像ができるということは、同じ本であっても人によって捉え方が違うということです。同じ本を読んだ人がいれば、感想を聞いてみましょう。その感想を聞けば、そんな「捉え方もできるんだ！」と、あなたの学びにもなります。他者理解がすすみ、「見方・考え方」が拡がり、深まっていきます。

11月の生活目標「身だしなみや言葉遣いに気を付けよう」

<学級での取組>

- ・先生や友達に気持ちの良い挨拶をする。
- ・時や場、相手に応じた言葉遣いをする。
- ・はっきりとした返事をする。
- ・場に応じたきちんとした身なりをする。